

令和8年度第1回下水道運営審議会 会議録

〔事務局〕 下水道経営課

〔開催日時〕 令和8年4月16日（木）午後1時30分から2時30分まで

〔開催場所〕 伊勢原終末処理場 管理棟2階会議室

〔出席者〕（敬称略）

（委員） 笠原俊男会長、相馬欣行副会長、柏崎恵理子、佐藤義一、重田芳乃、
飯塚健、竹内裕子、田村貴寿、西村賢一、三野泰宏

（欠席） 西田小百合、藤田与四彦

（事務局） 高梨和美下水道担当部長、平井淳一下水道経営課長
山本章弘下水道整備課長、中野進一下水道施設担当課長 外7名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

《審議の経過》

1 開会

2 議事

（1）令和6年度公共下水道事業会計決算の概要について

（2）令和8年度公共下水道事業会計当初予算の概要について

上記の内容について、事務局から資料に沿って説明が行われた。

【質疑応答】

(委員) 資本的収支が減っている理由として事業の減少と説明があったが、一方で当期純利益が減っているということはどういうことか。また、予算全体で見ると下水道収入はマイナスとなっている。下水道事業として良い方向に向かっているのでは。

(事務局) 資本的収支が不足しているが、企業会計特有の仕組みとして、支出にある減価償却費から収入にある長期前受金戻入分を差し引いた分を、資本的収支の不足分に充てることができるという制度がある。

(事務局) 一方で、収益的収支については下水道使用料収入が減少していることが特徴となっている。総体で見ると健全というわけではないが、予算としては成り立っている。

(委員) 資本費平準化債をゼロにするという目標で動いていると思うが、今回の予算からすると計画どおりに動くのは厳しいのでは。

(事務局) 資本費平準化債は赤字補てんの性質があるため、経営戦略の中で、できる限りの縮減を目標としている。一方で、一般会計からの繰入金には上限が決められており、資本費平準化債を使わざるを得ない状況にあるため、今回は計画値からすると若干プラスで借りの予定となっている。目標としては10年後にはゼロにしたい。

(委員) 下水道は生活する上でなくてはならない。しっかりと下水道対策をしてほしい。

(委員) 長寿命化計画で、伊勢原市でもカメラ調査をしていると思うが、調査結果について知りたい。

(事務局) 八潮市の事故を受けて本市でも令和7年1月と2月に緊急点検を2回実施した。両方とも特に異常は見られなかった。また、八潮市の影響を受けて国から全国特別重点調査ということで、毎月のように調査が来ている。今のところ異常はない。今後もカメラ調査を通して危険な箇所が発見されれば至急対応していきたい。

(委員) 下水道の伊勢原市の下水道の総延長は？

(事務局) 250キロメートル程度。

(委員) その中にある細い管や、最終的には各家庭に入っているところまで含めて、古くなっているところは優先的に調べてもらえると市民が安心して暮らせるようになる。計画的にきっちりとやっていってほしい。

(事務局) 伊勢原市には八潮市のような大きい管はなく、伊勢原市では最大で1.2メートルの管が1番大きい。管路の中には50年を超えるものが出てきている。更新時期を迎えているものについては事故のないように更新、長寿命化していくとともに、カメラ調査等、維持管理に努めていく。

(委員) マンホールトイレを設置した55基の場所について説明があったが、再度確認したい。

(事務局) 比々多小学校10基、桜台小学校13基、成瀬中学校12基、緑台小学校8基、今年度山王中学校に12基の計55基。なお、下水道が埋設されていない竹園小学校と中沢中学校には設置の予定はない。

(委員) 石田小学校に設置の予定はないのか。

(事務局) 石田小学校には3基設置されている。今回挙げなかった学校はすでに設置済。

3 その他

次回開催予定 令和8年12月頃(未定)

4 閉会